

第1回 松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 会議概要録

開催日時 平成24年8月31日（金）

午後1時～午後2時30分

場 所：KH三番町プレイス 3階 第1会議室

午後1時 開会

《委嘱状の交付》

- ・省略

《市長挨拶》

- ・別紙参照

《委員の紹介》

- ・別紙名簿参照

《議題1. 会長及び副会長の選任について》

- ・柏谷委員を会長、大谷委員を副会長として選任

《議題2. 推進協議会の設置目的について》

【事務局説明】

- ・県都の陸の玄関口にふさわしい松山駅周辺の整備について、地権者や関係者が情報を共有し、地区全体のまちづくりの取り組み方針について、議論を重ねながら合意形成を図る場として当協議会を設置した。

【A委員】

- ・松山市としてすでにまちづくりビジョンはないのか。

【事務局】

- ・これまでのビジョンとしては、都市計画マスタープランにおいて「集客」「集住」「コンパクトシティ」を掲げているが、松山駅周辺拠点街区の具体的な土地利用等による検討の場として、本協議会を設置した。

《議題3. 松山駅周辺整備事業の概要について》

【事務局説明】

- ・愛媛県施行のJR松山駅周辺連続立体交差事業と松山市施行の土地区画整理事業について説明

- (1) 連続立体交差事業について、第 1 段階として J R 松山駅にある車両基地と貨物駅を伊予市松前町へ移転し、第 2 段階として J R 松山駅を中心とする 2.4 キロの鉄道を高架する。
- (2) 土地区画整理事業について、第 1 期から第 4 期に分けて工事を進める。第 1 期は車両基地移転に影響を受けない駅西側から行い、第 2 期は車両基地の移転後に、第 3 期と第 4 期は鉄道高架化に合わせて行う。

【B委員】

- ・この協議会の目的が、過去の会の協議の繰り返しでは困る。より具体的に掘り下げて議論することが可能な会なのか。

【事務局】

- ・これまでの会で議論してきた内容を実際に具体化を図っていくことが、この協議会の目的である。

【副会長】

- ・土地区画整理事業は道路等を整備するもの、鉄道高架事業は鉄道を立体化して円滑にするもの、区画整理後の土地利用について、コンセプトを決め大規模な土地所有者が同じ方向に向けばまちの魅力につながる。この協議会は、道路や鉄道という基盤ができたあと、土地利用によってどう魅力を高めていくかの方向性を決めていく場ではないか。

【B委員】

- ・松山市の一つの集客拠点となるようなまちづくりをしなければならない。単なる通過駅ではなく、一般市民が集える場所とするためには、JR 四国の協力が必要である。

【C委員】

- ・今までもこのような会議で議論してきたが、具体的な方向性までは示されていない。この会議で合意形成が図られ、具体的な構想が練り上げられることを期待したい。

【D委員】

- ・正月と盆は混雑がひどく道路は車がいっぱい動かない状態である。まずは現状を知って、どう改善すべきかを明確化すべき。駅周辺の集客力の改善に向けて、今後も意見を言っていく。

《議題 4. 今後の推進協議会の進め方について》

【事務局】

- ・鉄道高架事業と土地区画整理事業の完成は平成 32 年度を目指している。
- ・平成 27 年度頃に J R 四国の跡地利用、東西駅前広場、J R 貨物駅の跡地利用の設計が始まる予定である。これからの整備を一体的に行うためには、この協議会でまちづくりガイドラインを平成 26 年度末から平成 27 年度にかけて策定する必要があると考える。

- ・にぎわいの創出、円滑な交通連携、趣きのある景観形成、ユニバーサルデザイン、災害に強いまちづくり等様々な観点から検討協議する必要がある。
- ・推進協議会に必要な事項を検討する会として幹事会を設ける。幹事は当面、松山駅周辺拠点地区における重要な整備主体である愛媛県、JR四国、松山市の担当部局で行う予定。

【E委員】

- ・路面電車はJRの高架化に伴い、西環状線まで延伸計画があると認識している。スケジュールに路面電車の整備費用の見通しも含めて位置付けが必要である。

【事務局】

- ・公共交通の結節拠点である駅前広場は、JRの鉄道高架化と合わせて、路面電車の西側への延伸を図るために取り組んでいく。取り組みについては、それぞれの設計等の調整が重要と考えており、駅前広場を検討する際には、幹事会等での協力をお願いしたい。

【会長】

- ・路面電車を延伸するためには、松山駅西口南江戸線の道路整備の完成が必要であり、相当期間が必要ではないか。どの程度を想定しているのか。

【事務局】

- ・松山駅西口南江戸線の土地区画整理事業区域外の西環状線までの整備については、県が道路を整備し、市と伊予鉄道で路面電車を延伸していく。鉄道高架化と区画整理に合わせて一体的にやっていきたいと県に申し入れている。

【C委員】

- ・景観の方向性は良いと思う。これを具体化して、民間との調整をどうするかが協議会の目的ではないか。
- ・松山駅と大手町をつなぐ地下道はどうなるのか。大手町との流れは、高齢化を意識して水平移動として欲しい。松山駅と大手町をペDESTリアンデッキでつなげて欲しい。
- ・大手町の再開発の可能性について町内で検討した結果、なかなか採算が取れないという結論だった。地権者のリスクも大きいことから、行政から相当なバックアップがないと実現しないのではないか。

【事務局】

- ・駅前広場の整備はユニバーサルデザインを目指す。そのなかで上下移動をサポートする機能も検討していく。また、交通安全の観点から、歩車分離も検討していく。
- ・再開発については、建替え・更新に合わせてまちづくりができるよう、法定の再開発や、柔軟な制度として優良建築物等整備事業の事業紹介を行っていききたい。

【会長】

- ・ペDESTリアンデッキは、直接アクセスできるというメリットはあるが、一方で下は陽が当たらず暗いなど、意見は様々である。ペDESTリアンデッキの導入の検討も今

回の協議に含まれるのか。

【事務局】

- ・駅前広場は、過去に路面電車の延伸計画と合わせて必要な面積の検討やイベント等に活用できる公共空間の検討がなされた。この成果を踏まえて具体的な整備に向け、空間的な利用の方向性を検討していきたい。

【E委員】

- ・面的な整備はこれからという状況であるが集客や活性化について、どこから人を集めるのか、路面電車の延伸以外のアクセス計画など、外との関係は何か決まっているのか。これからの議論か、それとも構想があるのか。

【事務局】

- ・今回の事業の中核が鉄道高架事業であり、それに伴う JR 予讃線の南北動線の強化、路面電車の延伸による市内回遊性の向上、環状線からの 2、3 本の都市計画道路の整備により空港、港からの自動車交通の利便性が高まる。このように公共・私的交通の重要な交通拠点となる。駐車場、駐輪場の整備も合わせて、いかに利用しやすい公共交通とするか、そのためには駅前広場の機能と交流を支える土地利用を図っていくものである。

《議題 5. その他》

【事務局】

- ・松山駅周辺地区の上位計画での位置づけ、市民等からの提言、これまでの調査検討について説明。

【委員】

- ・特に意見なし

午後 2 時 30 分 閉会